

事務事業名	重度心身障害者医療費助成事業		所属部局	保健福祉部		単位番号	5050				
			所属課室	福祉課		課長名	野呂瀬 毅明				
	☐ 実施計画事業		所属担当	障害者生活支援担当		担当者名	佐久間 幸一				
基本政策	基本計画	IV 快適で心のかよいあう都市づくり	予算科目	会計	名称	款	項	目	細目	細々目	
				01	一般	03	01	02	03	02	
政策	計画	17 社会福祉の充実	事業区分	☐ 国の制度による義務的事業 ☐ 施設等維持管理事業							
施策	体系	30 障害者福祉の充実		☐ 県の制度による義務的事業 ☐ 補助金交付事業							
				☐ 市の制度による義務的事業 ☒ その他の事業							
				☐ 義務化されている協議会等の負担金							
事業期間	☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返 (開始年度 15 年度) ☐ 期間限定複数年度 (~ 年度)		法令根拠	南アルプス市重度心身障害者医療費助成条例							
事務事業の概要	事業の内容・・・期間限定複数年度事業は次年度以降3年間の計画内容も記載 重度の心身障害者に対し、保険診療分の医療費を助成する事業			事業費の主な内訳 (22年度)							
				項目(細節)		金額(千円)		項目(細節)		金額(千円)	
				臨時職員賃金		1,626					
				印刷製本費		63					
				手数料		5,988					
				社会福祉費扶助(補助)		245,418					
					計				253,095		

1 現状把握(DO)

(1) 事務事業の目的と目標

① 活動	
22年度活動実績	・申請受付審査 ・医療費の請求審査助成および支給 ・受給資格者更新(年次)
23年度活動予定	・申請受付審査 ・医療費の請求審査助成および支給 ・受給資格者更新(年次)
② 対象(この事務事業は誰、何を対象にしているのか) * 人や自然資源等	
下記のいずれかに相応する障害を持つ者を対象とする。 【身体障害者手帳の総合等級1～3級、療育手帳におけるA判定、 精神保健福祉手帳1・2級、障害基礎年金1・2級、特別児童扶養手当1・2級】	
③ 意図(この事務事業により対象をどのような状態にしていけるのか、どのように変えるのか)	
診療等を通じて負担する医療費の軽減が望まれる	
④ 上位目的(どのような結果に結び付けるのか)	
重度心身障害者ならびにその扶養者・家族の福祉増進	

⇒ ⑤ 活動指標(事務事業の活動量を表す指標) 数字は記入しない	
名称	単位
ア 受給資格者数	人
イ 請求件数	件
ウ	
⇒ ⑥ 対象指標(対象の大きさを表す指標) 数字は記入しない	
名称	単位
ア 受給資格者数	人
イ	
ウ	
⇒ ⑦ 成果指標(対象における意図の達成度を表す指標) 数字は記入しない	
名称	単位
ア 請求件数	件
イ	
ウ	
⇒ ⑧ 上位成果指標(結果の達成度を表す指標) 数字は記入しない	
名称	単位
ア 医療費の圧迫により生活に不安を感じていない割合	%
イ	

(2) 事業費・指標の推移		単位	21年度 (決算・実績)	22年度 (決算見込・実績)	23年度 (予算・目標)	24年度 (次年度計画・目標)	25年度 (計画・目標)	26年度 (計画・目標)	最終 年度 (トータルコスト・目標)
年間 トータル コスト	事業費	国庫支出金	千円						
		県支出金	千円	123,201	125,272	131,858	129,825	139,825	
		地方債	千円						
		その他	千円						
		一般財源	千円	127,926	127,823	134,059	131,576	141,576	
	事業費計 (A)		千円	251,127	253,095	265,917	261,401	281,401	0
	人件費	正規職員従事人数	人	1	1	1	1	1	
		延べ業務時間	時間	1,944	1,944	1,944	1,960	1,960	
		人件費計 (B)	千円	8,672	8,672	7,702	7,766	7,766	0
		(A)+(B)	千円	259,799	261,767	273,619	269,167	289,167	0
	活動指標	人		2,284.0	2,382.0	2,500.0	2,500.0	2,500.0	
		件		59,885.0	60,816.0	63,800.0	65,700.0	65,700.0	
対象指標	人			2,284.0	2,382.0	2,500.0	2,500.0	2,500.0	
成果指標	件			59,885.0	60,816.0	63,800.0	63,800.0	63,800.0	
上位成果指標	%								

(3) この事務事業を取り巻く状況(対象者・社会状況等)の変化、市民意見等

① この事務事業はいつ頃どんな経緯で開始されたのか？	合併前の旧町村時から実施されており、合併後もなお、南アルプス市重度心身障害者医療費助成条例に基づき継続して実施されている。
② 事務事業を取り巻く状況は開始時または5年前と比べてどう変化しているか？また、今後の予測は？	受給者・請求件数は増加傾向にあり、それに伴い、事業費も年々増加している。
③ 事務事業に対して関係者(市民、事業対象者、議会等)からどんな意見・要望が寄せられているか？	意見等は寄せられていない。

(4) 改革改善の取り組み状況

① 改革改善の取り組み実施は？	☐ 取り組みしている ⇒【内容！】 ☒ 取り組みしていない ⇒【理由！】
② これまでの改革改善の取り組み状況・経過(取り組みしていない場合はその理由)	以前より改革・改善の事業として挙がっていない為
③ H 22年度に実施した改革改善の内容	特になし

事務事業名	重度心身障害者医療費助成事業	所属部	保健福祉部	所属課	福祉課
-------	----------------	-----	-------	-----	-----

2 評価(Check1)担当者による事後評価(複数年度事業は途中評価)

目的 妥当性 評価	①政策体系との整合性 この事務事業の目的は市の政策体系の施策に結びつき、貢献しているか？ 意図が上位目的に結びついているか？	☐ 結びついていない(見直し余地がある) ⇒【理由↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 結びついている ⇒【理由↓】 重度心身障害者の医療費負担を軽減できており、福祉の増進に繋がっている。
	② 公共関与の妥当性 この事務事業を税金を投入して市が行わなければならないのか？ 民間やNPOに委ねることは可能か？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 妥当である ⇒【理由↓】 県からの補助金があるため、市税での負担も妥当と思われる。 また、南アルプス市重度心身障害者医療費助成条例によれば、当事業の主体は市長である。
	③ 維持・継続の妥当性 現状の対象と意図、成果から考えて、この事務事業を将来にわたり、維持・継続していくことは妥当か？目的や事業の必要性を見直す余地はあるか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 適切である ⇒【理由↓】 医療費の保険適用分に対する助成であり、障害等級も限られている。
有効性 評価	④ 成果の向上余地 事務事業のやり方・進め方を変えることで成果を向上させることはできるか？できない場合は何が原因でできないのか？	☐ 向上余地がある ⇒【理由↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 向上余地がない ⇒【理由↓】 ・受給者証の正しい用法の説明や、領収書による償還払い制度の周知 ・受給者に、他の医療制度を適切に併用して頂くことで向上が図れる。 具体的には窓口での説明対応、医療機関との連携強化を行う。
	⑤ 類似事業との統合・連携の可能性 類似した目的を持つ事務事業が他にあるか？類似事務事業がある場合、その事務事業との統合や連携を図ることはできるか？	☐ 類似事務事業がある ⇒(類似する事務事業の名称を記入！) ☐ 統合・連携ができる ⇒【理由と具体案↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☐ 統合・連携ができない ⇒【理由↓】 ☒ 類似事務事業がない
	⑥ 休止・廃止した時の影響及び休止・廃止の可能性 この事務事業を休止・廃止した場合影響はあるか？また成果から考えて、休止・廃止することはできるか？	☐ 影響なし ☒ 影響あり ⇒【理由と影響の内容↓】 多額の医療費を取り扱っているため。 ☐ 休止・廃止ができる ☒ 休止・廃止できない ⇒【理由↓】 全県にわたる事業であり、容易に廃止できない。
効率性 評価	⑦ 事業費の削減余地 成果を下げずに事業費(コスト)を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など)	☐ 削減余地がある ⇒【理由・具体案↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 削減余地がない ⇒【理由↓】 補助対象となる受給者、請求件数、および事業費が増大しているため
	⑧ 人件費の削減余地 成果を下げずに人件費を削減できないか？(事業のやり方の見直しによる業務時間の削減や臨時職員対応や外部委託による削減はできるか？)	☐ 削減余地がある ⇒【理由・具体案↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 削減余地がない ⇒【理由↓】 補助対象となる受給者、請求件数、および事業費が増大しているため
公平性 評価	⑨ 受益機会・受益者負担の適正化余地 事務事業の内容が一部の受益者に偏っていないか？受益者負担を見直す必要はないか？公平公正か？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由・具体案↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 公平・公正である ⇒【理由↓】 受給対象となる障害等級は厳正に規定されており、所得による制限も規定されているため。

3 評価(Check2)担当課管理者による評価結果と総括

(1) 1次評価者としての評価結果	(2) 1次評価の総括(事務事業を実施した結果を振り返り気づいたこと、課題、今後の方向性等について)
① 目的妥当性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ② 有効性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ③ 効率性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ④ 公平性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり	受給者証の使用方法、医療制度など基本的な仕組みをパンフレットにわかり易く掲載し説明の時に配布することにより制度の効率的運用を図る。

4 今後の方向性(事務事業担当課案)(PLAN)

(1) 今後の事務事業の方向性(Check1の結果から定める)・・・複数選択可	(3) 改革・改善による方向性																					
☐ 廃止(目的妥当性①、②、③の結果) ☐ 事業統合・連携(有効性⑤の結果) ☐ 公平性改善(公平性⑨の結果) ☐ 休止(目的妥当性①、②、③の結果) ☐ 成果向上(有効性④の結果) ☒ 現状維持(全評価項目で適切) ☐ 必要性検討(目的妥当性①、②、③の結果) ☐ コスト削減(効率性⑦、⑧の結果)	<table border="1"> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト水準</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果水準</th> <th>向上</th> <td>☐</td> <td>☐</td> <td>☐</td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td>☐</td> <td>☒</td> <td>☐</td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td>☐</td> <td>☐</td> <td>☐</td> </tr> </table> ※ 廃止・休止の場合は記入不要			コスト水準			削減	維持	増加	成果水準	向上	☐	☐	☐	維持	☐	☒	☐	低下	☐	☐	☐
				コスト水準																		
		削減	維持	増加																		
成果水準	向上	☐	☐	☐																		
	維持	☐	☒	☐																		
	低下	☐	☐	☐																		
(2) 改革改善案について																						
① 窓口での説明をより綿密に行い、医療費の請求方法を周知して頂き、円滑な手続きを目指す。 ② 各医療機関と連携し、受給者が利用する受給者証を漏れなく提示させる。支払上の過誤を減らすことで、正確かつ事業について負担の少ない支払を進めていく。 ③ 受給者証交付の際に付記する注意事項について推敲を行い、制度の利用法を正しく理解していただく。																						
(4) 改革改善を実現する上で解決すべき課題とその解決策	(5) 事務事業優先度評価結果																					
① 医療機関との連携 ② 関連部署の職員との連絡機会の増加 ③	<table border="1"> <tr> <td>成果優先度評価結果</td> <td>対象外</td> </tr> <tr> <td>コスト削減優先度評価結果</td> <td>対象外</td> </tr> </table>	成果優先度評価結果	対象外	コスト削減優先度評価結果	対象外																	
成果優先度評価結果	対象外																					
コスト削減優先度評価結果	対象外																					